

## 研究

### 津久見湾南岸の地域調査 (一)

#### ―主として四浦地区―

矢野 彌生

(会員 佐伯市中山区)

はじめに

久しぶりに地理の小論をまとめてみたいと思つたのは佐伯史談会の「古文書を読む会」の一〇人ほどの小グループが、平成十九年五月に津久見市の南部に位置する四浦地区を訪ねたのが動機である。

四浦半島の北側を占める四浦地区は何か人々をなごませる魅力のある地域である。この地域の地理、地域の姿が見える調査、研究をしてみたいと考えたのである。

微力であるが、出来る限りの四浦の姿がよく見える小論をまとめてみたい。

#### 一、自然的基礎

##### (一) 面積

津久見市の二一・六％を占める四浦の広さと、津久見市の地域別の面積をみると、第一表のとおりである。即ち、四浦地区は八、九六平方kmで二一、六％を占める。それは、保戸島〇、八七平方km、日代六、五五平方kmにづく狭小な地域である事がわかる。

市街地のほとんどを占めている津久見地区は総面積の七八、九％を占め農漁村的性格の強い日代、四浦、保戸島の三地区にくらべて最も広い面積を持つ。さらに四浦地区には、沖吉〇、〇〇〇七平方km、高井〇、〇〇〇一平方kmの小島がある。

第1表 地域別面積

地区	面積 (平方km)	%
津久見	61.31	78.9
日代	6.55	8.4
四浦	8.96	11.6
保戸島	0.87	1.1
計	77.69	100.0

市政要覧『つくみ』昭和40年による

(二) 古い地層と海岸地形

秩父古生層

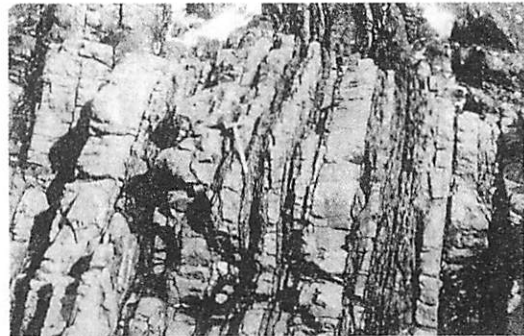
津久見市の四浦地区を占める地域は大部分が秩父古生層に属し、それより西南

に延びて津井峠、彦岳、尺間神社へと続く地層である。

この地域は、チャート(頁岩)を主とし、砂岩・粘板岩互層・石灰石などを伴う。<sup>(1)</sup>



第1図 大分県の基盤構造図



尺間山層の砂岩粘板岩互層(津久見市鳩ノ浦西方)

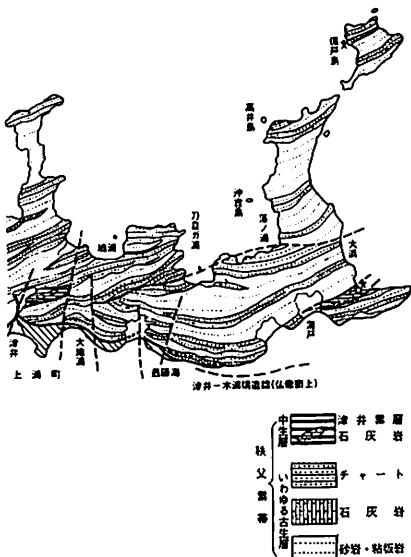
四浦半島は岩石海岸が卓越し、特に地質及び地質構造との対応が顕著である。半島南部の上浦地区の最勝海浦付近の海岸線は直線的であるが、これは構造線によるものと思われる。

また、岬部は大部分がチャートからなり砂岩・粘板岩は浸

食により湾入部を形成している。<sup>(2)</sup>

四浦地域は、古くから四浦珪石とよばれる炉材珪岩産地で、鉱床は鳩浦、久保泊、深良津、仁宅、落ノ浦の東西方向8kmに分布する秩父層の中・古生層のチャート・塊状チャート中に層厚一〇〜五〇メートルの炉材珪石が含まれる。<sup>(3)</sup>

また、高浜の海岸には、古生代にできたと考えられる見



第2図 四浦半島の地盤 (宮久三千年による)

事な褶曲の地層を見ることができるとも興味深い。

四浦半島の微地形 四浦半島の微地形について調査  
と沖積低地 した田畑公男の小論をもとに考  
えて見たい。

日豊海岸は、佐賀関半島の関崎より、宮崎県耳川河口付  
近に至る南北一二〇kmのリアス式海岸である。

大小の半島と湾入の繰り返しからなり、北より佐賀関

白津・四浦・鶴見などの半島が東西ないし東北東―西南  
西の方向に延び、それらの間に臼杵・津久見・佐伯など  
の湾入がある。

低地は、大小の湾入部を埋め尽くすように分布し、臼  
杵・佐伯の両平野を除いては、ごく狭小である。

また、河川も臼杵川、番匠川を除いては、いずれもこ  
く短く、非常に急流である。

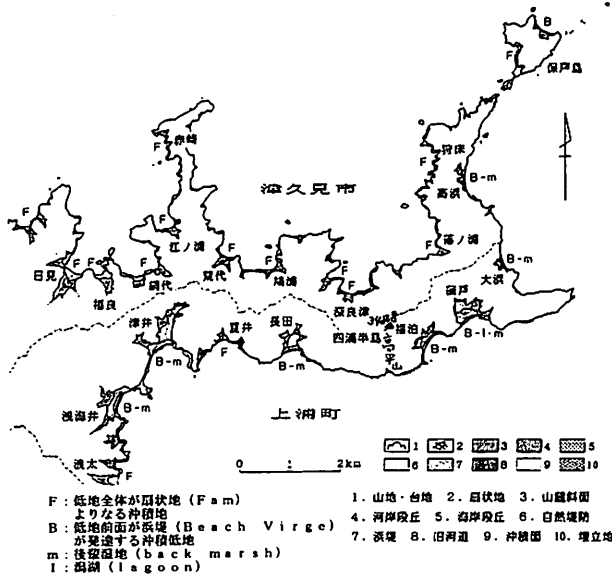
四浦半島の微地形と沖積低地を示したものが第3図で  
ある。

津久見市の四浦地区の各集落の低地を見ると、高浜を  
除いて、すべて扇状地(Fan)よりできた沖積地である。

また、高浜だけは、低地全面に浜堤(Beach R  
idge)が発達した沖積低地で、浜堤の背後に後背湿  
地(Back marsh)がある。

四浦半島の南部の上浦町(現佐伯市上浦)の浦戸では、  
浜堤の背後に後背湿地を有し、潟湖(Lagoon)が  
ある。

第3図 四浦半島の微地形分類図及び  
沖積低地の類型（大分県地理3号）



急傾斜地  
津久見市域には、地すべり防止区域の  
指定地はない。急傾斜地崩壊危険区域  
の指定地は、昭和五十八年（一九八三）三月末に、現在

第2表 急傾斜地崩壊危険区域指定地（単位：a）

区域名	所在地		指定積 指面
	大字	字	
宮ノ上網代	津久見浦	小網代・畑ヶ代・宮ノ上	82
岩屋	津久見	野添	183
千怒崎	千怒崎	千怒崎	94
2号千怒崎	千怒崎	カバカ浦、千怒崎	67
新地家	千怒	藤内、狩床	60
両家	千怒	両家、山田	140
下青江	下青	畑の代、迫奥	127
堅浦	堅江浦	羽迫、内名、久保浦	112
日見	日見	本地下、奥道	180
日見2号	日見	小浦	200
1号赤崎	網代	赤崎	10
2号赤崎	網代	赤崎	13
鳩浦	四浦	段原、鳩浦、鏗岡見 河内奥、脇の上、小浦 小河内	472

『砂防関係指定表』大分県による

二六カ所で、その概要は第2表のとおりである。

第2表 急傾斜地崩壊危険区域指定地（単位：a）

区域名	所在地		指定積 指面
	大字	字	
久保泊	四浦	久保泊	140
深良津	四浦	深良津	280
落ノ浦	四浦	落ノ浦	480
刀自ヶ浦	四浦	赤崎、刀自ヶ浦	250
西泊	四浦	越口、西泊、西泊奥 谷登、松原、桜ヶ谷	20
荒代	四浦	荒代	16
田ノ浦	四浦	田ノ浦	120
間元	四浦	間元	140
大元	四浦	向平、段畑、ヘラ、大元 二枚畑、後ノ谷	110
無垢島	長目	無垢島	136
1号保戸島	保戸島	長目、中ノ脇、串ヶ脇	461
2号保戸島	保戸島	長目	97
3号保戸島	保戸島	長目	100

『砂防関係指定表』大分県による。

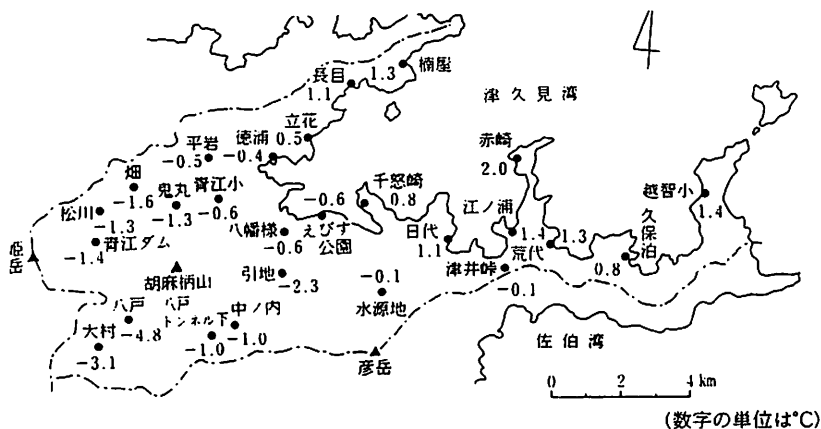
四〇九〇アールの指定地の六〇%弱は日代・四浦の東部地区であり、それに続いて無垢嶋、保戸島の離島地区、津久見、千怒の南部地区が指定されていて、青江、堅浦の北部地区が最も少ない。

これらの危険地区については、昭和四十四年度の保戸島地区の対策事業に始まり、各地で擁壁工事、モルタル吹付工事など、指定地域の現状にマッチした各種の対策が進められているところである。

リアス式 津久見市の中でも四浦半島北岸の四浦海 岸 地区はチャート、その他の岩層が細かい凸凹の海岸線が形成されており、代表的なリアス式海岸で、岩石海岸が卓越している。そのため、地形は急峻である。

二月の平均最低気温 津久見市の二月の平均気温を高い四浦地区 みると第4図のとおりである。

即ち、二月の平均最低気温は、湾の北側の楠屋で一、三度、南側の四浦地区では越智小一、四度、荒代一、三度、久保泊〇、八度で市内の各地区に比較して気温が高いこ



第4図 津久見湾沿いの1983年2月の平均最低気温（津久見市1985）

とがわかる。

これは四浦地区の半島部では冷たい空気を作り出すような谷が無く、海から温かい空気が影響を受けやすいので冷え込みが少ないのである。

このようにして海上の温かい空気が、陸地の冷え込みを押さえる働きは、余り内陸部までは及ばず、津久見市の場合には、半島部を除いて海岸線から、ほぼ1kmぐらいのようである。<sup>⑥</sup>

四浦の 四浦の高浜天満社の神社林にはウバメガシウバメガシ シの古木を中心とする典型的な森林が見られる。

また、落ノ浦から鳩浦一带にも見られる。

その他、津久見市では、赤崎の半島の特に東斜面、日代一带から堅浦にかけてと、長目一带の海に面した傾斜地、あるいは崖地に分布している。

ウバメガシ林の県内での分布は、北は佐賀関半島の南側から蒲江仙崎までの海岸部に限られている。

このように限られた分布域を示すことは、気候的要因の他に、地史的要因もかなり重要な意味を持つと考えられ

ている。<sup>7)</sup>

〈注〉

(1) 宮下三千年「日豊海岸の地形と地質」

〔日豊海岸自然公園候補地 学術調査

報告書〕 宮崎県・大分県 一九六九

(2) 千田昇・猪原順二「日豊リアス式海岸の地形」

〔日豊海岸国立公園学術調査報告書〕

大分県 一九八五

(3) 唐木田芳文・早坂祥三・長谷義隆

〔日本の地質9 九州地方〕

(共立出版一九九二)

(4) 田畑公男「日豊リアス式海岸における

沖積低地の地形学的類型化」

〔大分県地理第3号〕 大分大学

教育学部地理学教室 一九八九

(5) 神戸信和・寺岡易司「臼杵地域の地質」

(地質研究所 昭和四十三年)

(6) 川西 博「津久見市の気象」

〔津久見市誌〕津久見市 昭和六十年)

(7) 二村昭八「四浦のウバメガシ林」

〔津久見市誌〕 津久見市 昭和六十年)